

## 8.1 プロジェクト推進（防災科学技術研究所）

### 8.1.1 はじめに（研究の概要と目標）

本研究は多くの研究機関が参画する共同研究であるので、参画研究期間の研究目標を統一し、研究ベクトルを一致させることがミッション達成の必須条件である。そのためには、参画研究機関同士の情報共有が必要であり、各研究項目の実施機関が研究内容を重複させることなく、互いに連携することが非常に重要である。これまでの2年間と同様、各研究機関の研究進捗状況や成果の把握、研究体制の調整等を随時行えるように、プロジェクト推進体制を整備し、会議等の開催を企画、実施することとした。なお、昨年度、減災情報共有プラットフォームの定義を明確化し、各研究機関の研究内容と減災情報共有プラットフォームとの関連付けが明瞭となったため、研究ベクトルの統一は十分達成できている。したがって、最終年度は実証実験を成功に導くことが最重要課題であることから、実証フィールドの協力自治体、協力公共機関および実証実験参画研究機関との打合せを随時企画、実施するとともに、見附市実証実験WG（WG 6）ならびに豊橋市実証実験WG（WG 2）ならびにシステム接続WG（WG 3）の活動を中心に実施するプロジェクト推進体制とした。

### 8.1.2 プロジェクト実施体制

昨年度と同様に、関連する研究項目をまとめて分科会（ワーキンググループ：WG）を構成し、WGを主体として研究活動実施体制で、研究を推進させることとした。また、参画機関の研究員が一同に解する全体会議である連絡会議を開催し、研究者の意思統一を図る場とした。

平成18年度のプロジェクト実施体制ならびに会議体の構成は、平成17年度から変更なく、図8.1-1、表8.1-1に示すとおりであるが、前述のように、WG 2、WG 3、WG 6の活動が主体的に行うプロジェクト推進体制とした。連絡会議の開催は、表8.1-2にまとめた。

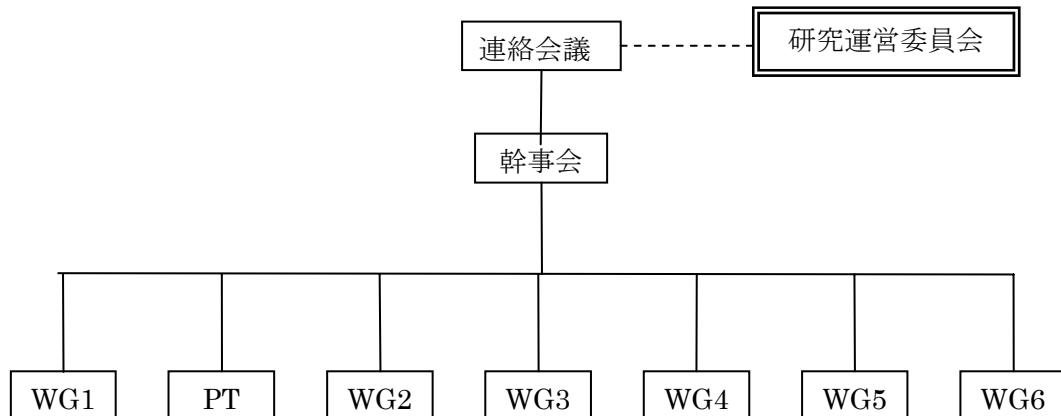


図8.1-1 平成18年度のプロジェクト実施体制

表 8.1-1 ワーキング(WG)等会議体の構成

| 会議体               | 主査     | 所属          | 備考         |
|-------------------|--------|-------------|------------|
| WG 1 (災害情報標準化)    | 目黒 公郎  | 東京大学生産技術研究所 |            |
| PT (空間データ整備)      | 寺木 彰浩  | 建築研究所       |            |
| WG 3 (プラットフォーム接続) | 野田 五十樹 | 産業技術総合研究所   | システム接続に特化  |
| WG 4 (ライフライン)     | 末富 岩雄  | 防災科学技術研究所   |            |
| WG 5 (情報提示)       | 竹内 郁雄  | 東京大学        |            |
| WG 2 (豊橋市実証実験)    | 久田 嘉章  | 工学院大学       | 豊橋市実証実験に特化 |
| WG 6 (見附市実証実験)    | 鈴木 猛康  | 防災科学技術研究所   | 見附市実証実験に特化 |
| 幹事会               | 鈴木 猛康  | 防災科学技術研究所   | 幹事長        |
| 連絡会議              | 後藤 洋三  | 防災科学技術研究所   | 議長         |

表 8.1-2 連絡会議開催状況一覧

|     | 実施日        | 参加機関   | 議題  |
|-----|------------|--|---|
| 第1回 | 2006/07/31 | JST, 防災科研, 消防庁,<br>建研, 産総研, 工学院大,<br>東大竹内研, 安全・安心<br>マイプラン, 三菱重工                         | (1)スキーマ準備状況と今後の予定<br>(2)見附市実証実験に関する各機関の進捗状況<br>と今後の作業予定の確認<br>(3)豊橋市実証実験に関する各機関の進捗状況<br>と今後の作業予定の確認<br>(4)平成18年度第1回研究運営委員会について<br>(5)次回連絡会議開催について |
| 第2回 | 2006/09/13 | 内閣府, JST, 防災科研,<br>建研, 産総研, 消防庁,<br>工学院大, 東大竹内研,<br>東大関沢研, 豊橋技科大,<br>安全・安心マイプラン,<br>三菱重工 | (1)スキーマ構築報告<br>(2)平成18年度第1回研究運営委員会の進め方<br>と準備資料<br>(3)実証実験WGの進捗報告<br>(4)研究運営委員会に向けた事前準備作業の確<br>認と日程調整<br>(5)次回連絡会議開催について                          |
| 第3回 | 2006/10/18 | 内閣府, JST, 防災科研,<br>建研, 産総研, 消防庁,<br>工学院大, 東大竹内研,<br>東大関沢研, 豊橋技科大,<br>安全・安心マイプラン,<br>三菱重工 | (1)見附市実証実験に関する最終確認  |

### 8.1.3 WGの活動

平成18年度に主体的に活動したWG2, WG3, WG6の活動を、それぞれ表8.1-3, 表8.1-4, ならびに表8.1-5にまとめた。

表8.1-3 WG2開催状況一覧

| 実施日        | 参加機関  | 内容  |
|------------|---|---|
| 2006/04/06 | 工学院大学, 消防庁<br>防災科学技術研究所<br>東京大学閑沢研<br>産業技術総合研究所<br>豊橋技術科学大学<br>建築研究所<br>ネットコンシャス(株)<br>東北大学<br>安全・安心マイプラン | (1) H17年度のWG2の活動内容の確認<br>(2) H18年度のWG2の研究計画の確認<br>(3) 豊橋市との打ち合わせ日程の確認   |
| 2006/06/30 | 工学院大学, 消防庁<br>防災科学技術研究所<br>東京大学閑沢研究室<br>産業技術総合研究所<br>豊橋技術科学大学<br>建築研究所<br>安全・安心マイプラン                      | (1) 前回議事録案の確認<br>(2) これまでの打合せ状況の確認<br>(3) 7/17 山田地区防災ワークショップの内容確認<br>(4) 安全安心マイプランによる各種シミュレータの説明<br>(5) 産総研による交通シミュレーションの内容説明 |
| 2006/07/25 | 工学院大学, 消防庁<br>防災科学技術研究所<br>東京大学閑沢研<br>産業技術総合研究所<br>豊橋技術科学大学<br>建築研究所<br>安全・安心マイプラン                        | (1) 前回議事録案の確認<br>(2) 山田町・山田石塚町防災ワークショップ報告<br>(3) 豊橋市実証実験の概要説明<br>(4) 上十条5丁目町会の防災訓練計画の説明<br>(5) その他                            |
| 2006/09/13 | 工学院大学, 消防庁<br>防災科学技術研究所<br>産業技術総合研究所<br>東京大学閑沢研<br>豊橋技術科学大学<br>建築研究所<br>安全・安心マイプラン<br>東北大学                | (1) 前回議事録案の確認<br>(2) 北区防災訓練(2006/9/3実施)について<br>(3) 豊橋実験のシナリオ案及び各機関の役割案について<br>(4) 今後の予定                                       |

表 8.1-4 WG3 開催状況一覧

| 実施日          | 参加機関   | 内容   |
|--------------|--|--|
| 2006/04/06   | 工学院大学、消防庁<br>防災科学技術研究所<br>東京大学閑沢研<br>産業技術総合研究所<br>豊橋技術科学大学<br>建築研究所、東北大学<br>安全・安心マイプラン | 共有プラットフォームの開発状況とテスト実験  |
| 2006/04/28   | 工学院大学、消防庁<br>防災科学技術研究所<br>東京大学閑沢研<br>産業技術総合研究所<br>建築研究所、東北大学<br>安全・安心マイプラン             | (1)各システムの進捗状況報告<br>(2)見附市の防災訓練内容について<br>(3)WG1 の情報共有データについて<br>(4)豊橋の防災訓練内容について<br>(5)共有データに使用するネットワークデータの説明と配布<br>(6)減災情報共有データベース (DaRuMa) のバージョンアップの説明とインストール<br>(7)接続テストの説明 |
| 2006/06/02   | (上記に同じ)  | (1)情報スキーマ<br>(2)共有プラットフォームの開発状況とテスト実験  |
| 2006/08/04   | (上記に同じ)  | (1)現時点での状況報告<br>(2) DaRuMa の現状報告及び GoogleEarth のデモ<br>(3)各機関同士での情報連携について<br>(4)情報スキーマについて<br>(5)道路ネットワークデータについて<br>(6)夏季における集中開発について<br>(7)その他                                 |
| 2006/08/29   | (上記に同じ)  | 各機関システム間での接続試験   |
| 2006/9/12-13 | (上記に同じ)  | 各機関システム間での接続試験   |
| 2006/10/11   | (上記に同じ)  | 豊橋市実証実験に関する接続試験  |
| 2006/10/18   | (上記に同じ)  | 見附市実証実験に関する接続試験  |
| 2006/10/23   | (上記に同じ)  | 見附市実証実験に関する接続試験  |
| 2006/11/2    | (上記に同じ)  | 豊橋市実証実験に関する接続試験  |
| 2006/11/8    | (上記に同じ)  | 豊橋市実証実験に関する接続試験  |

表 8.1-5 WG6 開催状況一覧

| 実施日        | 参加機関   | 内容   |
|------------|--|--|
| 2006/05/09 | 防災科学技術研究所<br>東京大学目黒研<br>東京大学竹内研<br>工学院大学、消防庁<br>安全・安心マイプラン                           | 見附市実証実験の参加機関・概要などの確認<br>(1) 実証実験イメージ<br>(2) 第2回予備実験参加機関のシステム概要<br>(3) 平成18年度見附市実証実験協力要請機関  |
| 2006/06/06 | 防災科学技術研究所<br>建築研究所、消防庁<br>産業技術総合研究所<br>東京大学目黒研<br>東京大学竹内研<br>工学院大学<br>安全・安心マイプラン     | 実証実験に向けた下記項目の確認<br>(1) 見附市実証実験において自機関に関して検証したいと考える具体的な内容<br>(2) 検証したい内容に関連して実証実験に必要とするシナリオ（場面）<br>(3) シナリオを実行するために必要な基盤データ<br>(4) シナリオを実行するために共有を必要とするデータ<br>(5) 見附市からの提供を必要とするデータ |
| 2006/07/04 | JST<br>防災科学技術研究所<br>消防庁<br>産業技術総合研究所<br>東京大学竹内研<br>工学院大学<br>人と防災未来センター<br>安全・安心マイプラン | 各参画機関の進捗状況確認、各システム間の調整項目、見附市確認項目の確認・調整<br>(1) 概要シナリオと取り扱われる情報項目<br>(2) 見附市確認項目<br>(3) 確認事項   |
| 2006/08/25 | 防災科学技術研究所<br>消防庁、建築研究所<br>産業技術総合研究所<br>東京大学竹内研<br>工学院大学<br>安全・安心マイプラン<br>TG情報ネットワーク  | (1) 実証実験被害想定および概略シナリオの確認<br>(2) 各関係機関の作業要請・確認  |

### 8.1.4 プロジェクト専用ホームページの運用

前年度に引き続き、本プロジェクト専用ホームページを、防災科学技術研究所・川崎ラボラトリのウェブ上に開設している。研究プロジェクトの内容やイベントを広く公報するとともに、プロトコルやソフトウェア、スキーマを公開し、ダウンロードを可能としている。

本プロジェクト専用ホームページの中に参画研究機関の研究者専用ホームページも開設しており、WGや会議の開催案内を行うとともに、会議の議事録、配布資料等のダウンロードが可能となっている。これにより、参画機関研究者間の情報共有が行われており、プロジェクトの効率的推進の一助となっている。図8.1-2にホームページの一例を示す。

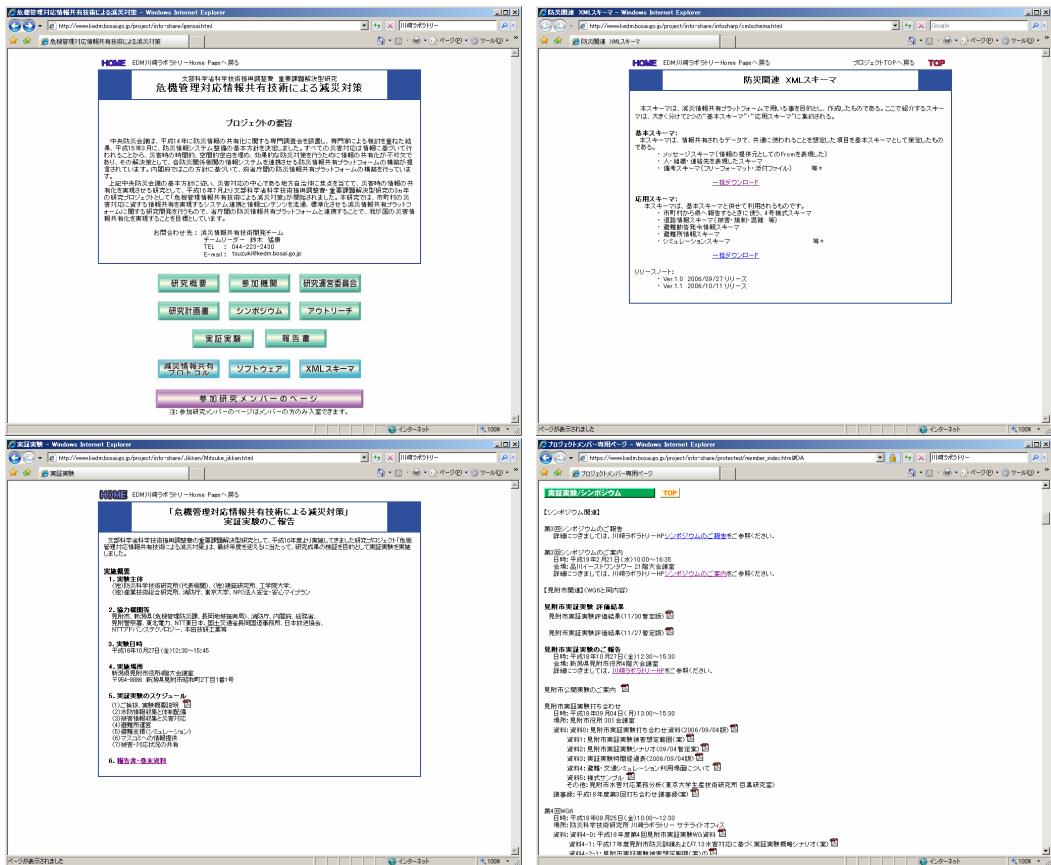


図8.1-2 プロジェクトのホームページ例

### 8.1.5 まとめ

本研究プロジェクトでは専門分野の異なる多くの研究機関参加の下で研究が実施され、また枠組みの構築から応用技術開発までを同時スタートで実施することとなった。研究実施期間は3年間とは言え、実質的には2年半である。さらに、地方自治体を実証フィールドとした実証実験の実施に、最後の1年間は集中することになるため、研究開発を1年半で実施する工程で研究を進めなければならない。まず、研究者の研究ベクトル統一に極めて大きなパワーを費やした。試行錯誤しながら、各研究機関に協力を求め、研究代表機関である防災科学技術研究所では常時3～4名がプロジェクト推進に関連する調整、準備、まとめ等の作業を、研究を実施しながら行ってきた。

また、防災に関する研究では、中央府省庁、地方自治体やライフライン事業者等の防災関係機関からの協力が不可欠である。関係機関の防災担当者と、お互いに同胞意識を持って接することができてはじめて、防災関係機関から本当の協力が得られる。したがって、これらの防災関係機関との調整にも多大な時間を割くこととなった。このように、プロジェクト推進に人と時間を割くことにより、非常にまとまった研究グループにまとめることができ、また実証実験を成功させたと考えている。

実証実験に特化させたWG活動によって、見附市ならびに豊橋市の実証実験を成功させることができ、本研究プロジェクトの当初のミッションは、ほぼ達成することができた。新潟県見附市の実証実験実施に当たっては、総務省の「地域ICT未来フェスタinにいがた」と連携して、実証実験を成功させることができた。また、総務省管理下の財団法人全国地域情報化推進協会とも意見交換を適宜行い、減災情報共有プラットフォームが地方自治体へ普及展開される下地を作ることも出来た。減災情報共有プラットフォームは、単なる研究成果にとどまつてはならない。研究はこれで3ヵ年の予定を終えるが、本研究プロジェクトの主力メンバーが役員となり、NPOを設立することによって、減災情報共有プラットフォームの実現に向けた活動は継続させることとした。